

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年 9月 5日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100264		
法人名	有限会社 もえぎ		
事業所名	グループホーム もえぎ野		
所在地	広島市安芸区船越南3丁目23番6号 (電話) 082-822-8181		
自己評価作成日	令和元年8月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490100264-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490100264-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和元年9月4日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

その人その人の、今までの物語（生活歴）を大切に、スタッフも生活歴を知った上で、各入居者の心に寄り添うケアを実践しています。また、入居者の心が動いた時に、すぐに行動ができるように心掛けています。一人ひとりが持つ力を最大限に活かし、笑顔が絶えないケアをスタッフ一丸で取り組んでいます。法人理念である「笑顔と温もりの中でそして家族として…」を大切に考え、色々な場面において、自分の親や祖父母だったらどうするだろうかと常に自分自身に問いかけ、もえぎ野が入居者様の「家」に近づけるように日々努めるようにしています。地域とのつながりを大切に、地域行事に積極的に参加するなどして地域との触れ合いに努めています。また、家族会を通じて、家族と一緒に入居者様の生活を支えて行けるように日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

理念の要素「ビジョン・ミッション・バリュー」を具体的な行動指針として「クレドカード」に記載し、職員が携帯して理念を実践する礎としている。花見などの年間行事、月担当者が企画する芋煮会・ソーメン流し、回転すしや・フードコートへの外出行事など利用者が楽しむ機会が多い。家族会が組織され、総会・勉強会が開催され、敬老会・クリスマス会などの行事では、利用者・職員・家族と一緒に楽しんでいる。夏祭りや秋祭りの地域行事に職員が準備から手伝い、地域との交流を深めている。「職員が働きやすい環境づくり」に取り組み、職員のアンケートなどから職員の要望を把握して処遇改善を行っている。法人内の「コミュニケーションを深める」委員会は、良好な人間関係を作るツールとして「ありがとうカード」を提案し実施している。なお、職員の意見から「人材育成」「安全対策」に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	「笑顔とぬくもりの中でそして家族として・・・」という法人理念をもとに、毎年ユニット目標を作り実践している。3ヶ月に1回ユニット目標について評価を行うことで目標が達成できるように努めている。クレドカード作成。	理念の要素「ビジョン・ミッション・バリュー」を具体的な行動指針として「クレドカード」に記載し、職員が常に携帯し、理念を実践する礎としている。またユニット毎に年間目標を作り、3か月毎に評価している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地元の行事やお祭りなどに参加することや散歩等、又地域の美容院への散髪などの外出で地域の人々との交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターから要請があり、小学校・地域の方々に認知症サポーター養成講座を開き活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	二か月に一回状況報告を行い、構成員の皆様から助言を頂くなど、サービス向上に努めている。	運営推進会議には、利用者、市内の介護事業所施設長も参加し意見交換している。また、会議出席者を委員として「身体拘束適正化委員会」を開催し、身体拘束について協議している。災害避難の際、「利用者が居室に残ってないことを確認後【確認終了のサイン】を提示する必要」との提案があり、検討した。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	事業所は、市町担当者と運営推進会議にて話し合い、市町とともにケアサービスの質の向上を目指している。	地域包括支援センターが運営推進会議に出席し意見交換している。また、地域包括支援センターからの相談に応じ、連携して利用者を受け入れた事例では、利用者の状況を報告している。地域包括支援センター主催の「認知症サポーター養成講座」で講師として協力している。	

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全体会議等で、身体拘束についての勉強会を行うことで、職員全員が身体拘束をしない取り組みを実践している。玄関など施錠は行わず、チャイムなどで対応している。運営推進会議にて報告している。	玄関は夜間を除き施錠されてなく、利用者は自由に出入り出来る。年2回、身体拘束に関する研修会を行い、事例検討・グループワーク・身体拘束に関する確認テストを実施している。「身体拘束適正化検討委員会」を定期的に開催している。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	会議にて、虐待の防止について、研修や話し合いを行っている。日々の生活の中で身体に傷などが無い様に注意している。法人内で安全対策委員会をつくり、記録を元に職員間で共有して原因究明や再発防止に努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在入居されている方に、成年被後見人の方がおられる。ご家族の方で興味のある方がおられたら制度の説明などを行い利用してもらえるように支援している。パンフレットなどを掲示している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前には、もえぎ野を事前に見学して頂き利用者の家族の不安や疑問を言っていただき十分な説明や理解納得を図って契約をして頂くようにしている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を発足し、家族会を通して要望等を言って頂ける体制作りをしている。また、直接要望などを言って頂くように契約時にも話をしており、意見・要望があればできるだけすぐに改善するようにしている。玄関に意見箱を設置して意見を頂けるようにしている。	家族会は、総会・法人合同の勉強会、敬老会・クリスマス・大掃除の行事を行い、その際に家族の意見を聞いている。家族からの苦情に対しては、提示者と話して問題を解決している。家族からの要望により、施設内事故について報告し、施設内に「安全対策委員会」を組織して安全管理に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一回、会議を開き、またユニット会議などで管理者に話をするなど意見交換をしている。3ヶ月に1回面接を行い、不満・苦情など気軽に話が出来る様に、職員とコミュニケーションを図っている。コミュニケーションが円滑に行えるように、法人内でコミュニケーションチームを作っている。	月1回の職員会議、3か月に1回の職員面接で職員の意見を聞いている。また、法人の各種委員会からの提言、アンケートから職員要望を把握し、処遇改善を行っている。職員の意見により、「職員評価制度の改善」「人材育成」に取り組むことを検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	向上心を持てるように、ユニットの年間目標及び個人の目標を作成している。人事考課制度を導入し、職員のやる気を出せる環境を作っている。地域での活動(地域行事・認知症サポーター養成講座)などにも職員が参加できるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年間で研修計画を立て法人内外の研修を受けられる体制を作っている。自主勉強会として、介護福祉士・介護支援専門員勉強会なども行い職員を育てる体制を作っている。研修費の補助を行い職員が自分から学べる環境を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	広島県グループホーム協会事業者交流会に参加し、他施設とも積極的に交流を持っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用開始前から職員にご入居者の情報を話し統一した対応が出来るように努めている。また、日々コミュニケーションを取ることで信頼関係づくりに努めご家族様ともども安心して頂けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>利用前に事前訪問したり、事前にホームに来てもらい、説明を行うなかで、現在家族が困っている事等を聞くようにしている。入居されてからも、しっかりと家族と会話をする事で関係作りに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>利用前に本人・家族より話を聞きアセスメントをしたうえでサービス内容を検討している。また、定期的にスタッフとも話し合いを行う事で、今必要なサービスの検討をしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>一緒に家事の手伝いをして頂き、家族としての役割を持っていただくなど暮らしを共にする関係を築いている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>いつでも面会に来てもらい、家族の方と絆を大切にしてもらっている。家族会などで、一緒に行事に参加してもらい会を盛り上げてもらっている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>知人・友人からの手紙や電話でのやり取りを大切にしている。(あまり手紙や電話のやり取りはない) 知人・友人の面会も自由に来て頂くようにしている。</p>	<p>年賀状や手紙を職員が手伝って作成し、家族に送付している。墓参りや自宅への帰宅を家族に伝えて対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士話ができるように職員が中に入り支援している。家事の手伝いや創作活動を一緒に手伝っていただき、入居者同士の関わりを深めることが出来るように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終わっても、相談があれば対応し、今までの関係を断ち切らない様、対応している。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族の方と話し合い行いながら対応している。現状ではできていないこともある。職員同士では月に1度のカンファレンスやユニット会議などで検討の場を設けている。	事業所として「利用者の生活歴」に重点を置き支援し、日々の会話から把握した「思い」はケース記録・カンファレンス記録に記載して職員間で共有している。「野菜作りをしたい」をケアプランに取り入れた事例があり、野球観戦の希望には、対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	面会時に本人の生活歴を家族に聞いたり、本人との会話の中で生活歴や馴染みを聞かせてもらい把握し、職員間で共有してケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者一人ひとりの持っている出来る事出来ないことについて、その都度職員同士で話し合いを行うことで現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>スタッフや関係者の間でご本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について話し合いの場を設け介護計画を作成している。</p>	<p>利用者毎に担当者を決めている。ケアプランの実施状況は担当者が中心となってチェックし、職員全体で話し合っ てモニタリングを行っている。その後、ケアカンファレンスでケアプランの見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>会議などを通してカンファレンスを行うことで情報の共有に努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々 に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>ご本人やご家族様の要望に出来る限り対応したサービスやケアを行えるよう取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の保育園に餅つき会などに参加してもらっている。地域とのつながりを大切にしている。もっとかかわりを持っていきたいと思っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>隔週、協力医の往診がある。電話での連絡は、24時間取れるようになっている。かかりつけ医より指示があった場合は、総合病院など適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>利用者・家族の要望でかかりつけ医を決めている。かかりつけ医は往診して利用者の健康状況を把握しているが、その際、看護師は、利用者の状況を説明している。利用者の体調変化があれば、看護師が医師に連絡して対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	もえぎ野内で看護師を確保し、日々バイタルC Kなどを行い入居者の健康状態の把握に努めている。入居者の気付きや異常時などの場合は、看護師に報告し適切な対応、指示をもらう様に努めている。早期発見・早期治療に努めている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院の看護師としっかり情報交換を行うようにしている。入院中も面会など行い、関わりを継続する。退院後も継続してかかりつけ医と連携して治療してもらえるようにしている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期についての対応を検討しているが、今現在そのような方はおられない為実施していない。	入居時に「重度化した場合および看取りについての指針」を説明している。重度化した際には、医師が家族に状況の説明をしている。その後、家族の意向を確認し、医師・家族・事業所が協議して今後の方針を協議し、それに沿って支援している。今年度、2件の看取り事例がある。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時、事故発生時に備えて訓練を行っている。(AED使用法、救急蘇生法など)現時点で職員全員が実践力を備えているとは言えない。年に1回以上研修を確保している。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、防火訓練を行っている。年に1回風水害の訓練を行っている。事務所に避難経路や消防に通報する設備を備えてある。地域の方に参加要請を行っているが、参加には至っていないが、災害時における協定書を地域の町内会と結んでいる。	年2回、日中・夜間を想定した防火訓練は利用者も参加して行われている。年1回の風水害避難訓練では、避難場所となっている法人建物まで、利用者と一緒に移動して避難経路を確認している。町内会と災害時における協定を結んでいる。	

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員一人一人が、入居者個々の特性を理解し人格を尊重する意識を持った言葉かけが出来ている。	「人格の尊重・プライバシー」の研修を行っている。職員による個人情報漏洩に関しては研修会で注意を促している。個人記録は厳重に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者によっては、希望を表したり自己決定を行ったりすることが難しい方もおられるが、思いに沿った働きかけを行えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側の都合で動いてしまうときもあるが、なるべく本人のペースで生活して頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の意思を尊重し、身だしなみやおしゃれについて、希望があれば添うようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	コミュニケーションを取っているが、入居者と職員と一緒に食事はとれていない。出来る人に洗濯干し、たたみ、調理補助や食器お盆拭きを手伝ってもらっている。	毎日の食事は3食とも職員の手作りで提供し、利用者の要望を参考に献立を決めている。食器拭きやテーブル拭きの仕事を利用者と一緒に行っている。父の日行事でケーキを一緒に作ったり、「ソーメン流し」「芋煮会」などの行事、回転すし・フードコートへの外食で食事を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事の量は、2週に1回体重測定をおこない、管理している。盛り付けも、本人の状態を見ながら盛り付けている。水分補給は定期的に行い、水分量が確保できるように努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、声かけを行い、口腔ケアを行ってもらっている。また、歯科医に訪問してもらい、専門的な診療や口腔ケアを定期的に行ってもらい、口腔内の清潔保持に努めている。全体会議でも口腔ケアの研修を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>1日を通し、トイレに行った時間、回数など記録し、把握している。声かけを行い、トイレで排泄ができるようにしている。</p>	<p>利用者の排泄パターンを把握して、トイレ誘導を行っている。夜間、ポータブルトイレを利用する利用者もいる。リハビリパンツから布パンツへと改善した事例がある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>食物繊維のあるものを、食事に取り入れ、便秘時には、ドクターに相談して排便コントロールを行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>基本的に一日置きに入浴してもらっている。(週2回の入浴ができるようにしている)体調、安全を考慮した上で、その人希望のタイミングに合わせて入浴を楽しんでもらえるように努めている。</p>	<p>週2回、入浴するようにし、声掛けをして見守る利用者もいるが、個別入浴で入浴中は、ゆっくりと話をするようにしている。利用者の要望があれば、同性介護を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<b>○安眠や休息の支援</b>  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	居室にはベッド、フロアにはソ ファなど休息出来る場所を作り、 好きな時にゆっくり休んでもら えるようにしている。夜間は居 室の温度・湿度を管理し、気持 ちよく眠れるように支援してい る。		
47		<b>○服薬支援</b>  一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	配薬マニュアルを整備し、意識 付けをすることで、誤薬がない ように努めている。症状の变化 については、ケース記録に記入 し、職員間での共有や看護師・ ドクターへの報告が出来るよう にしている。薬の効能や副作用 について全員が理解している とはいえない。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b>  張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換等 の支援をしている。	毎月、行事など行う事で、日々 の楽しみを持ってもらえるよう に考えている。入居者の有する 能力を活かし、家事手伝いや 創作など役割を持っていた だいている。		
49	18	<b>○日常的な外出支援</b>  一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援してい る。	ご本人の希望を聞き、家族の方 の協力のもと外出出来るよう に支援している。個人外出を 企画し、ご本人の希望に沿 った外出が行えるように努め ている。(一定の方のみしか できていない)	花見などの年間行事、フード コートや回転すしなどの外食 行事で、利用者の外出機会 は多い。しかし、日常的な散 歩などの外出は少なく、今 後は散歩の機会を増やす ように検討したいと考えて いる。	
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b>  職員は、本人がお金を持つ ことの大切さを理解しており、 一人ひとりの希望や力に 応じて、お金を所持したり 使えるように支援している。	本人から要望があった場合、 スタッフが持ち出して使用 している。ただ入居者1 人で使ったり、所持したり してはいない。		

自己評価	外部評価	項目( 1ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人から要望があれば、ご家族に電話を出来るようにしている。電話できない人の方が多くおられる。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>各居室の前、トイレなどには手作りの表札をかけたり、季節感を感じられる様に壁紙作りを一緒になって飾りの創作などを行っている。</p>	<p>空気清浄器・加湿器・トイレの水冷器などを利用して、温度・湿度を適切に管理して快適に過ごせるよう配慮している。職員と一緒に作成した「壁飾り」や利用者による「貼り絵」を掲示している。クリスマスや正月の飾りつけを行い楽しんでる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファやテーブルを置き、入居者同士がゆっくり話が出来るように、努力しているが、共用空間に、独りになれる空間はないのが現状。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家で使っていた家具などをそれぞれの居室に置き、大切な写真やアルバムなどから、その人にとって馴染みの空気作りを行っている。(持ち込みされていない方もおられる)</p>	<p>家で使用していた家具を持ち込み、家族の写真・趣味の音楽のCDを持ち込んで快適に生活できるようにしている。踊りを習っていた利用者が自分の着物を持ってきて、敬老会で舞踊を披露することがある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>入居者が出来る所は、出来るだけ自分でやって頂いているが、時々それが出来ない事がある。</p>		

V アウトカム項目( 1ユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目( 2ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「笑顔とぬくもりの中でそして家族として・・・」という法人理念をもとに、毎年ユニット目標を作り実践している。3ヶ月に1回ユニット目標について評価を行うことで目標が達成できるように努めている。クレドカード作成。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地元の行事やお祭りなどに参加することや散歩等、又地域の美容院への散髪などの外出で地域の人々との交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターから要請があり、小学校・地域の方々には認知症サポーター養成講座を開き活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二か月に一回状況報告を行い、構成員の皆様から助言を頂くなど、サービス向上に努めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事業所は、市町担当者と運営推進会議にて話し合い、市町とともにケアサービスの質の向上を目指している。		

自己評価	外部評価	項目( 2ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全体会議等で、身体拘束についての勉強会を行うことで、職員全員が身体拘束をしない取り組みを実践している。玄関など施錠は行わず、チャイムなどで対応している。運営推進会議にて報告している。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	会議にて、虐待の防止について、研修や話し合いを行っている。日々の生活の中で身体に傷などが無い様に注意している。法人内で安全対策委員会をつくり、記録を元に職員間で共有して原因究明や再発防止に努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在入居されている方に、成年被後見人の方がおられる。ご家族の方で興味のある方がおられたら制度の説明などを行い利用してもらえるように支援している。パンフレットなどを掲示している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前には、もえぎ野を事前に見学して頂き利用者の家族の不安や疑問を言っていただき十分な説明や理解納得を図って契約をして頂くようにしている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を発足し、家族会を通して要望等を言って頂ける体制作りをしている。また、直接要望などを言って頂くように契約時にも話をしており、意見・要望があればできるだけすぐに改善するようにしている。玄関に意見箱を設置して意見を頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目( 2ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一回、会議を開き、またユニット会議などで管理者に話をするなど意見交換をしている。3ヶ月に1回面接を行い、不満・苦情など気軽に話が出る様に、職員とコミュニケーションを図っている。コミュニケーションが円滑に行えるように、法人内でコミュニケーションチームを作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	向上心を持てるように、ユニットの年間目標及び個人の目標を作成している。人事考課制度を導入し、職員のやる気を出せる環境を作っている。地域での活動(地域行事・認知症サポーター養成講座)などにも職員が参加できるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年間で研修計画を立て法人内外の研修を受けられる体制を作っている。自主勉強会として、介護福祉士・介護支援専門員勉強会なども行い職員を育てる体制を作っている。研修費の補助を行い職員が自分から学べる環境を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	広島県グループホーム協会事業者交流会に参加し、他施設とも積極的に交流を持っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用開始前から職員にご入居者の情報を話し統一した対応が出来るように努めている。また、日々コミュニケーションを取ることで信頼関係づくりに努めご家族様ともども安心して頂けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 2ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくり努めている。	利用前に事前訪問したり、事前にホームに来てもらい、説明を行うなかで、現在家族が困っている事等を聞くようにしている。入居されてからも、しっかりと家族と会話をする事で関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用前に本人・家族より話を聞きアセスメントをしたうえでサービス内容を検討している。また、定期的にスタッフとも話し合いを行う事で、今必要なサービスの検討をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一緒に家事の手伝いをして頂き、家族としての役割を持っていただくなど暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	いつでも面会に来てもらい、家族の方と絆を大切にしてもらっている。家族会などで、一緒に行事に参加してもらい会を盛り上げてもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人・友人からの手紙や電話でのやり取りを大切にしている。(あまり手紙や電話のやり取りはない) 知人・友人の面会も自由に来て頂くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目( 2ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士話ができるように職員が中に入り支援している。家事の手伝いや創作活動を一緒に手伝っていただき、入居者同士の関わりを深めることが出来るように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終わっても、相談があれば対応し、今までの関係を断ち切らない様、対応している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族の方と話し合い行いながら対応している。現状ではできていないこともある。職員同士では月に1度のカンファレンスやユニット会議などで検討の場を設けている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	面会時に本人の生活歴を家族に聞いたり、本人との会話の中で生活歴や馴染みを聞かせてもらい把握し、職員間で共有してケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者一人ひとりの持っている出来る事出来ないことについて、その都度職員同士で話し合いを行うことで現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 2ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	スタッフや関係者の間でご本人がより良く暮らす為の課題とケアのあり方について話し合いの場を設け介護計画を作成している。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	会議などを通してカンファレンスを行うことで情報の共有に努めている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族様の要望に出来る限り対応したサービスやケアを行えるように取り組んでいる。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の保育園に餅つき会などに参加してもらっている。地域とのつながりを大切にしている。もっとかかわりを持っていきたいと思っている。		
30	11	<b>○かかりつけ医の受診診断</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	隔週、協力医の往診がある。電話での連絡は、24時間取れるようになっている。かかりつけ医より指示があった場合は、総合病院など適切な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目( 2ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	もえぎ野内で看護師を確保し、日々バイタルC Kなどを行い入居者の健康状態の把握に努めている。入居者の気付きや異常時などの場合は、看護師に報告し適切な対応、指示をもらう様に努めている。早期発見・早期治療に努めている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院の看護師としっかり情報交換を行うようにしている。入院中も面会など行い、関わりを継続する。退院後も継続してかかりつけ医と連携して治療してもらえるようにしている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人と家族の希望がありもえぎ野で看取りを行う。事業所内でカンファレンスを行いかかりつけ医と家族と協働して看取りを行っていく。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時、事故発生時に備えて訓練を行っている。(AED使用法、救急蘇生法など)現時点で職員全員が実践力を備えているとは言えない。年に1回以上研修を確保している。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、防火訓練を行っている。年に1回風水害の訓練を行っている。事務所に避難経路や消防に通報する設備を備えてある。地域の方に参加要請を行っているが、参加には至っていないが、災害時における協定書を地域の町内会と結んでいる。		

自己評価	外部評価	項目( 2ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員一人一人が、入居者個々の特性を理解し人格を尊重する意識を持った言葉かけが出来ている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者によっては、希望を表したり自己決定を行ったりすることが難しい方もおられるが、思いに沿った働きかけを行えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側の都合で動いてしまうときもあるが、なるべく本人のペースで生活して頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の意思を尊重し、身だしなみができるようにかかわっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	コミュニケーションを取っているが、入居者と職員と一緒に食事はとれていない。出来る人に洗濯干し、たたみ、調理補助や食器お盆拭きを手伝ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目( 2ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b>  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の量は、2週に1回体重測定をおこない、管理している。盛り付けも、本人の状態を見ながら盛り付けている。水分補給は定期的に行い、水分量が確保できるように努めている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b>  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、声かけを行い、口腔ケアを行ってもらっている。また、歯科医に訪問してもらい、専門的な診療や口腔ケアを定期的に行ってもらい、口腔内の清潔保持に努めている。全体会議でも口腔ケアの研修を行っている。		
43	16	<b>○排泄の自立支援</b>  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	1日を通し、トイレに行った時間、回数など記録し、把握している。声かけを行い、トイレで排泄ができるようにしている。		
44		<b>○便秘の予防と対応</b>  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食物繊維のあるものを、食事に取り入れ、便秘時には、ドクターに相談して排便コントロールを行っている。		
45	17	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b>  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に一日置きに入浴してもらっている。(週2回の入浴ができるようにしている)体調、安全を考慮した上で、その人希望のタイミングに合わせて入浴を楽しんでもらえるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目( 2ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	居室にはベッド、フロアにはソ ファなど休息出来る場所を作り、 好きな時にゆっくり休んでもら えるようにしている。夜間は居 室の温度・湿度を管理し、気持 ちよく眠れるように支援してい る。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	配薬マニュアルを整備し、意識 付けをすることで、誤薬がない ように努めている。症状の变化 については、ケース記録に記入 し、職員間での共有や看護師・ ドクターへの報告が出来るよう にしている。薬の効能や副作用 について全員が理解している とはいえない。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換 等の支援をしている。	毎月、行事など行う事で、日々 の楽しみを持ってもらえるよう に考えている。入居者の有する 能力を活かし、家事手伝いや 創作など役割を持っていた だいている。		
49	18	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援してい る。	ご本人の希望を聞き、家族の方 の協力のもと外出出来るよう に支援している。個人外出を 企画し、ご本人の希望に沿 った外出が行えるように努め ている。(一定の方のみしか できていない)		
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	本人から要望があった場合、 スタッフが持ち出して使用 している。ただ入居者1人で 使ったり、所持したりしては いない。		

自己評価	外部評価	項目( 2ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人から要望があれば、ご家族に電話を出来るようにしている。電話できない人の方が多くおられる。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>各居室の前、トイレなどには手作りの表札をかけたリ、季節感を感じられる様に壁紙作りを一緒になって飾りの創作などを行っている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファやテーブルを置き、入居者同士がゆっくり話が出来るように、努力しているが、共用空間に、独りになれる空間はないのが現状。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家で使っていた家具などをそれぞれの居室に置き、大切な写真やアルバムなどから、その人にとって馴染みの空気作りを行っている。(持ち込みされていない方もおられる)</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>入居者が出来る所は、出来るだけ自分でやって頂いているが、時々それが出来ていない事がある。</p>		

V アウトカム項目( 2ユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームもえぎ野

作成日 令和元年10月31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を活かした取り組み・・・2ヶ月に1回構成員の方に状況報告を行っているが、参加者は管理者と主任のみの参加となっている。一般職員はどのような話し合いが行われているのかわかっていない。	運営推進会議に一般職員に全員参加してもらう。	1年間の職員参加のスケジュールを作成する。ユニット会議にて運営推進会議の内容を報告する。	1年
2	3・5	市町との連携・・・地域包括支援センターより認知症サポーター養成講座に講師として管理者が参加しているが、一般職員はどのようなことをしているのかわからない。	管理者だけでなく一般職員も一緒に認知症サポーター養成講座に参加する。法人全体で地域貢献を行う。	地域包括支援センターより認知症サポーター養成講座の開催依頼があった場合、一般職員も参加する。	1年
3					
4					
5					
6					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。